



進学先

## 神戸市外国語大学 外国語学部

向山 昂穂さん  
向陽高校 普通科  
硬式テニス部

進学先

## 神戸市外国語大学 外国語学部

有井 清人さん  
向陽高校 普通科  
サッカー部

### 外国語大学を目指そうと決めたのはいつ頃ですか。

**向山:** 僕は高1.もともと英語ができる方で、できる教科はもっと好きになっていくので。英語をやっていて、日本語じゃない別の言語がわかっていく感覚がおもしろくて。で、どんどん英語が好きになって。

**有井:** 僕は高3になる直前くらい。それまではきとうに志望校を言っていたと思う。でも、兄が二人とも国際系に行っていて、ちょっと憧れというか、いいなあと気になっていて。で、昂穂(向山さん)から受験教科の話とかを聞いて、外大もありだなんてなりました。

**向山:** 二人とも数学が大嫌いだったので(笑)。英語が好きで、かつ受験で数学を使わなくていいというのがマッチして。もうここしかないって。第二志望をどうするかはちょっと考えたけど、親に私立に行ってもいいって言ってもらったので、そこはもう甘えさせてもらおうかなって。外国語大学で神戸市外大以外の国公立だとちょっと遠くなるので、私立がNGなら志望校自体考え直したかもしれないけど。神戸市外大無理なら私立かなと。

**有井:** 僕も。他の国公立は考えていなかったです。落ちたら私立。



### 大学に入りたいこと、学びたいことは？

**向山:** 普通に英語の勉強を。受験英語は読んで解くだけだったので、喋る機会があったらいいなっていうのと留学したいなっていうのと。第二言語のドイツ語の勉強も楽しみで。ドイツってなんかかっこいいから(笑)。

**有井:** 僕は第二言語はスペイン語。大学に入りたいことは、留学が一番かもしれないです。留学とかでいろんな国に行って、いろいろ見たいってのが大きいです。

**向山:** 世界史をやっていたら、出てきたところとか行ってみたいくなるよな。ルネサンスとかローマとかをやったら、なんかすごい建物の写真いっぱいあって。あ、これ現地で見てみたいとか、興味がわいた。

**有井:** それはマジである。遺産とか、何の遺産かわかってたら見たくなくなる。絵画とかも世界史で出てきたのを生で見たい。高1の時に学校でイギリス研修に行ったんですけど、その時は何も勉強をしていなくて。大英博物館とか行ったけど、何にも分かってなくて。ロゼッタストーンとかも。今ならわかるのに。あと、英語で話せていたかということ、それもわからない感じ。ホストファミリーがすごく優しく砕けていてコミュニケーションをとりやすかったので。お互い、どの英語を知っているか、どの日本語を知っているかと探りながら会話をしていた感じ。でもあの研修で他のところにも行きたいなっていう気持ちになったし、一週間程度だったのでもっといたいとはなりました。

**向山:** 僕はドイツに行ってみたい。ヨーロッパにいろいろ行ってみたいです。世界遺産が多いと思うので。

**有井:** 分かる。遺産を見に行きたい。あと、将来のことははっきり決めていないけど、海外に関わる仕事とか、海外に行く仕事の方がいいとは思っています。

**向山:** 僕も、何かしら英語を活かせる仕事がいいなと思っています。



### 英語の成績がすごく良かった二人の勉強法などを教えてください。

**向山:** 英語を触った瞬間に、なんかもういけるぞみたいな。僕はけっこうセンスで英語解いてきたと思ってます。感覚派。でも高1からハイレベル英語(ACクラスライブ授業)は受けていたから、そこで培ってきたものも大きかったのかなとは思っています。高3に入って一年間、文法の勉強はゼロでいけたので。

**有井:** 僕はどうやっていたかな…。僕もけっこうフィーリングな気がするけどな。

**向山:** そういえば、高3の受験期に他の高校の子に英語を教えてって言われて。で、教えるときにRules2(関正生のThe Rules 英語長文問題集2入試標準(旺文社))とか、まあちょっと簡単めのをやっていたんですけど、文中に「the book」とかが出てきたら、その子は「the book」を普通に流すんです。例えばある本について説明してる長文だったら、まず最初に本の名前が出てきて、その後で「the book」って出てくるじゃないですか。第二段落ぐらいで「この本は」って出てきた時に「この本」って「何の本なんか」ってまず確認する。その子はそれをしてなくて。「この本は何？」って聞いたら全然わかってなかった。「the book」が出てきたら普通に「the」が付いてるから「このthe bookはこの文中の何のことか」を確認しないと。普通流してしまうような名詞も確認した方が話の流れがつかみやすいので。長文を読む時はそうしてました。そういうのは、やっぱり長文をたくさん読むことで感覚になっていくんだと思う。

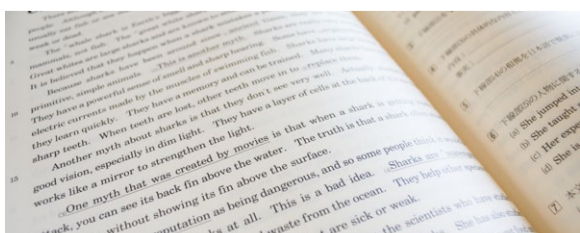
**有井:** やっぱり経験よな。僕ら、けっこう数はやったかもな。だいぶやったと思う。

**向山:** 僕は長文を読む前の英文解釈のフェーズはけっこうやった自信がある。高2の秋に。周りが受験にむけて動き出すのがちょっと早かったので、友だちが先に英文解釈を触り始めて。その友だちにいい参考書がないか聞いて。まずは入門英文問題精講(旺文社)を一周やって。ポラリスの英文解釈1(関正生の英文解釈ポラリス1 標準~応用レベル(KADOKAWA))をやって、もう一周して。で、入門もそのあとにもう一周して。ポラリスの英文解釈2(関正生の英文解釈ポラリス2 発展レベル(KADOKAWA))っていう激ムズのやつを必死でやりました。

**有井:** 僕もポラリスやった。1も2も。でもまあ高3の5月6月頃ですけど。2はたぶん7月以降。まあでもポラリス2は早慶、上智、旧帝大とかのレベルだから普通はやらなくてもよかったのかもしれないけど。

**向山:** 英文が東大のやつだったりするし。でもやってよかったです。

長文は、高3の初め頃にRules3(関正生のThe Rules 英語長文問題集3入試難関(旺文社))から。1・2を飛ばして3から。途中でつまずいたりもしたけど。神戸市外大のオープンキャンパスは計3回行ったんですけど、そこで外大生にインタビューする時間みたいなのがあって。そこで「私は単語帳も一周したことがなくて、ずっと長文だけ。長文、長文、本当に長文ばかり読んでいました」って人がいて。そっちの方がいいのかなとか思ったし、単語帳おもしろくないし。続かないし。一日に二長文とか決めてやった方が個人的には上手くいきました。



**有井:** 僕は、やっておきたい300(やっておきたい英語長文300(河合出版))から。高1・高2は塾に来てなかったんで、自分がどれだけできるのかわかってなかったから、300をやって、そのまま500(やっておきたい英語長文500(河合出版))をやって、順々に進めて。そこから一回、Rules2にいったけど、これは簡単すぎるってなってRules3にいった。そこからは昂穂と同じ感じかな。10月頃までずっと長文やってたよな。

**向山:** 共テの対策を始めるまで長文中心で。共テの勉強を始めてからも、二次の長文は触っておいた方がいいかなってことで、一日一長文は絶対にやってました。



**有井:** うん。やってた。あと、Rules3は夏休みくらいに音読でも使った。何回か読んだ長文でも、もっと速く読むために音読を。

**向山:** 僕は音読はそんなに続かなかった。一回読めた長文は何度も読む必要は無いかなと思って。でも、Rules3のlesson8・9あたりはものすごく難しいので、一回読んだ後に和訳とか文構造の解説とかと見てから、構造と内容を意識してもう一回隅から隅まで音読をするっていうのはした。

**有井:** 僕も音読はその部分を中心に二週間くらい。アカデミーでも「空いている教室を借りていいですか」って聞いて教室で音読をやった。

**向山:** 僕もアカデミーの教室で、人がほとんどいない時にブツブツ言ってた(笑)。あまり声を出すと発音が気になって構造や内容に意識がいけないって話を聞いたので、本当につぶやくくらいで。

あと、単語はどうだったかな…。接頭辞、接尾辞とかで覚える感じだったかな。「pre」ってつくやつは「前」っていう感じの。

**有井:** あと、語源を考えたらわりと覚えやすいし分かりやすかった。

**向山:** 僕は音でも覚えてました。単語を見るときも、ずっと目追うより一回は自分で口に出した方が頭に入るかなと思ってるんで。

**有井:** うん。それはやってた。

**向山:** あと、アニメとかに出てくる技名とかで覚える(笑)。



**有井:** 自分の知っている何かと結びつけたら覚えやすいよな。動詞で出た単語がわからなくても、それが名詞になってる単語は知っていたりするから「ああ、この単語はあれの分か。じゃあこういうことか」みたいな。そういうのはけっこうある。

**向山:** 僕も暗記は苦手だから、そういうのが良かった。

**有井:** 覚え方っていうか…考え方。そういうやり方じゃなかったら、気合しかないよな。何回もやるしかない。

**向山:** でも、ゼロの状態から単語っていきにくと思う。あと、文章読んでたら勝手に覚える単語もけっこうあると思う。

**有井:** 長文の解説にはだいたい「この文章で出てきた単語一覧」みたいなものがあるから、わかってなかったものはマークしてそれを覚えていったらいい。

あと、リスニングはそんなに対策してなかったかな…。僕らは英会話とは行ったことがなくて、学校英語中心だったけど、英会話をやっていた人はリスニングには強かったと思う。

**向山:** リスニングは嫌いだった…。でも、音読した英文は絶対に前よりは聞き取れるようになってるから、そういうやり方がいいかも。何も知らない状態でリスニングを解こうとするのじゃなくて、一回聞いて、音読をした後に解く。読めない単語は、一回聞いたときに上にカタカナで書いて。

**有井:** 僕は聞いたままに声に出してみる感じ。抑揚とかも近づけてやってました。

**向山:** 僕らは英語しかしてないから、英語について試す時間はいっぱいあったしな。

英作は高3の夏休みごろからだったかな。一時期、AIに問題を作ってもらってたんですけど、結局似たような問題ばかりになってきたから参考書をやるしかないってなって。英作文が面白いほど書ける本(竹岡広信の英作文が面白いほど書ける本(KADOKAWA))を。分厚いけど二周した。

**有井:** 同じ参考書をやってた。あれはよかった。長さもちゃんとあるし、書き方が三通りくらいあるし。

**向山:** 実際の生徒の誤答みたいなのも載ってて、解説もしっかりしてたし。

**有井:** 僕らは英語に時間をかけることができたから、あのボリュームでよかった。

## Academy Campusのことについて教えてください。

**有井:** ヨッシー(吉田先生)の難関大英語(難関大二次対策英語(ACクラスライブ授業))は難易度がちょうど合っていたと思う。

**向山:** そこそこ悩める問題と、普通にできる問題のバランスがよかったよな。

**有井:** 答えはわかったとしても、それ以外で出てくるヨッシーからの質問とかがあって。「この文の構造は何?」とか聞かれてわからなくて、ちゃんと考えさせられるからよかった。

**向山:** ヨッシーの長文問題解いて「ここで言ってることはこっちと同じだよな」って線を引かれるんだけど、あんまピンとこないときもあって。でも、絶対僕たちよりヨッシーの方が英語に触れてるキャリア長いので、もしかして僕らもこのあと大学でいっぱい英語やっていったら、そういう見方ができるようになるのかもとは思った。あと、自分で二次試験の過去問やってた時に、絶対本番では時間が足りないことは分かってたから、ヨッシーに「どういう問題の切り方をするか」っていう話をしてもらった。

あと、長沼先生の国語(ACクラスライブ授業)はおもしろかったです。覚え方が独特だったけど、妙に頭に残る。これを言いながらこういう動きをやって言われるんです、全員(笑)。もう、その授業は絶対に印象に残るので。共テが終わってから、古文は1ミリも触ってないですけど、授業で覚えたことはまだ言える。大学卒業しても言えるんじゃないかってくらい。

**有井:** 長沼先生の授業を受けて、やっと国語の「読み方」を覚えてもらったっていうか。それまでは模試とかも、全部文章を読んでそこから解くしかなかったけど、先生の授業で攻略法を見つけれたいな感じでした。



**向山:** サテライン(代ゼミサテライン講座)は、政経(蔭山克秀 講師(共通テスト政治・経済))を受けてました。講義も良かったし、受験生に親身な感じがした。あと、身近な例を出してくれるから受けていておもしろかったです。

**有井:** 僕は蔭山先生の参考書も買っていたから「あ、これはこういうことだな」みたいなのがつなげやすくわかりやすかった。

**向山:** あと、アカデミーは、先生との距離が近かった。だから質問にも行きやすかったです。岡先生は、見てきた生徒数が段違いなので信頼できるし。岡先生が言ってることはほぼ合ってるやろうみたいな。

**有井:** 参考書や赤本もいっぱい置いてくれていたのもよかった。あと、自習室も環境がよかったと思います。

**向山:** 学校帰りに一緒にすぐ来れるし。

**有井:** 夏とかも、だいたい誰かしらいるっていうのが、けっこう大きかった。

**向山:** 分かる。一人で教室来て勉強していると、解いてる時に「何やってんだろう、俺」ってなるときあったから、誰かがいるって大きい。

**有井:** 朝一、自分が先に着いて、だれもいなかったらヤル気が全く出ない。先に誰かしらいたら「やろう」って思えるけど、誰もいないと、なんかちょっとだらけてしまうし。

**向山:** 見られてないとだらけるよな。スマホを見てしまったり、エンジンがかからなかったり。横を見て誰かがやっていたら「やるか」って。あと、みんなで学校帰りに一緒に来れるのもよかったし、座り心地のいい椅子をジャンケンとかで取り合いしてたのも、それはそれでよかったかも。

**有井:** まあ他に比べてピリついてはなかったのもよかったかもな。仲間が多いっていうか、同じ目標のやつらが多いっていうのは、結構でかい。

## 後輩へのメッセージをお願いします。

**向山:** 僕は、受験が終わって今までの受験期を見直したときに「この日だけは、すごく頑張った」みたいに言える日がなくて。たぶんどこかで、数分間はゲームしてるし昼寝もしてるし。だけど、一日でもいいから「あの日頑張ったな」っていうのがあったら、終わってから誇りに思えるのかなって。そんな一日を何回か作ってもよかったのかなって、受験が終わってから思いました。

**有井:** でも、なんていうか休憩の方も必要と僕は思う。僕らはずっと、そこまで切羽詰まっていなかったとか、ピリついてなかったから。だからこそ、そこまでメンタルがやられなかったのかなって。スマホを全部切ったりとかやってもいいのかもしれないけど、それで逆にストレスになるのではと思います。適度に甘えた方がいいのかなと。僕らの場合、家で全然勉強をしないタイプだったから、だから塾に来た時はちゃんとやろうっていうのはあったし。

**向山:** 「塾で勉強しなかったら終わり」くらいだったよな、本当に。

**有井:** 家に帰ってリュックを開くことがなかったの。でもそれぐらいのテンションだから病むことなく乗り切れたのかなとは思いますが。

## インタビューを終えて

向山君と有井君を含む今年の向陽男子メンバーは、まさに「受験は団体戦」を体現する生徒たちでした。仲間同士で一緒に来て、自習室が閉まる最後まで頑張り、そして一緒に帰る——そんな1年間を過ごしていました。互いに刺激し合い、励まし合い、アドバイスし合い、足を引っ張り合うことなく、本当に素晴らしい関係性で受験生活を送っていたと思います。

二人に共通して言えるのは、塾を非常に上手く活用していたことです。吉田先生の英語の質問対応や添削指導を積極的に利用し、ぐんぐん英語力を伸ばしていました。また、学習スケジュールや問題集の選定についても自発的に相談に来てくれることが多く、塾の機能を最大限に活かしながら合格へとつなげてくれました。



将来は世界を飛び回るグローバルな人材として活躍してほしいと願っています。素晴らしい大学生活を送ってください。

※今回、向陽高校でもトップクラスの英語力を誇る二人に、英語の学習法について多く語っていただきました。後輩の皆さんには、ぜひ成功者から学んでほしいと思います。